

(町史を読む)

READ TOWN HISTORY



広報しらかわ第1号
で見る白川町の歴史

先月リニューアルした「広報しらかわ」は昭和32年に創刊されて以来、66年間にわたって発行されてきました。白川町広報の第1号は「白川町広報」として創刊されましたが、これは白川町が合併されてから半年後のことで、当時の新藤町長は挨拶で「合併したとはいえ他地区のことを知らない方も多いと思うので、紙面を通して町の姿を知ってもらいたい」と語っています。今回はそんな創刊号から話題をピックアップして当時の白川町を振り返りましょう。

○消防団統合案成る

白川町合併後の消防団は半年の間、旧町村の体制のままに残されていました。そして昭和32年4月に旧消防団が統合され、白川町消防団として発足しました。ちなみに現在の白川町消防団では、操法大会への参加を取りやめ新しい操法が



白川町広報 第1号

企画されるなど、持続可能な消防団を目指す改革が進められています。

○新庁舎建設の第一歩

町村合併当時の協定による新庁舎の建設が計画され、第1期工事として敷地の整備工事が着手されました。そして現在の白川町でも新庁舎の建設を計画しており、令和5年4月に敷地の整備が完了したところです。新庁舎は今年度の9月に建設工事に着手し、令和7年5月の開庁を予定しています。

OPEN IN 2025



vol. 12

総務課庁舎整備室

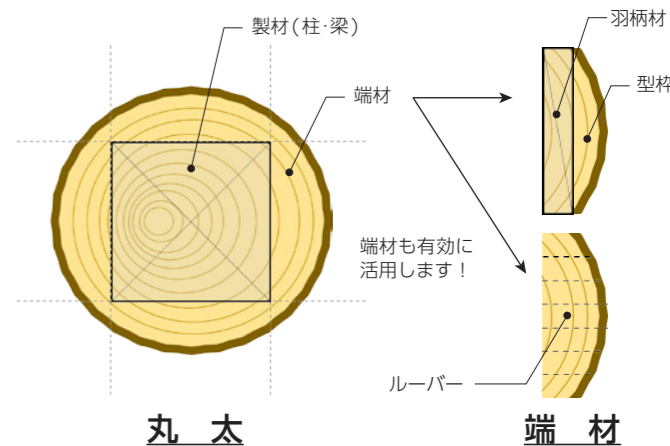
庁舎建設通信



● 町産材をとことん使い切る！

○どうやって使い切るの？

原木を建物の柱や梁に製材するとき端材が発生します。新庁舎ではその端材も有効活用し、余すことなく原木を使い切る計画としています。例えば、羽柄材*1や仕上げ材、型枠に使うことを考えています。



○桧を感じる空間に！

鉄筋コンクリート構造となる1階でも、桧を感じられる空間にできないかと、コンクリート壁の型枠に端材を使うことを検討しています。これにより、コンクリートに桧の樹皮が転写され桧の風合いを感じられる空間になります。

右の写真は端材で作った型枠とコンクリート壁のモックアップ*2です。端材の並べ方や樹皮の有無など、4パターンを試作してみたところ、隙間をあけて樹皮を残したものが桧の風合いがでていい感じになりました。



*1 羽柄材… 柱や梁などの構造材を補うための下地となる、筋交や根太、垂木などの小さな角材や板材
*2 モックアップ… 実際に施工する前に仕上がりや質感を確認するための試作品

♪ 今月のワンフレーズ

ふるさと

日本の田舎の情景が詰まった「ふるさと」ですが、口ずさむことができる方も多いのではないでしょうか。浅井先生のアレンジにも注目してお聴き下さい。

楽器：グローリアホルの
パイプオルガン
演奏：浅井 寛子



ふるさと納税レポート

4月の寄付額 65.4万円

02 ふるさと納税で新庁舎建設を応援してください！

ふるさと納税の使い道に、「新庁舎建設応援プロジェクト」が追加されました！新庁舎は、「防災拠点となる安全・安心な庁舎」「利用者にとって使いやすい庁舎」「自然と調和した白川らしい庁舎」を基本とし、安全な生活を守るとともに、気軽に利用できる心のよりどころとなる場所を目指しています。ふるさと納税を町外にお住まいのご家族や友人にPRしていただき、みんなで応援しましょう！

ふるさと納税は
各サイトから！



楽天市場に出店中!
Rakuten



地域おこし協力隊活動報告

協力隊が行く！



早いもので白川町に来てから1年半が経ちました。最近をよく息子のサッカーの付き合いをしている、2人きりで試合をするのと「僕は日本代表、お父さんは？」と、息子は決まって日本代表を選び、小さいながら日の丸を背負っている姿が愛くるしいです。

前職では夜中過ぎまで働いたり、家に帰れない日もあり、「たまに帰ってくるこのオジサンは誰？」みたいな顔をよくされたので、白川町では夫婦揃って子供の成長をじっくりと感じられる働き方ができとても嬉しいです。林業も頑張っていますので、引き続きよろしく願います！



今月のレポーター



栗野 裕司
活動内容
林業従事